

「持続可能な畜産事業の実現」への取り組み

三桜電気工業株式会社
環境ソリューション本部



目次

1. サステナビリティ宣言
2. サステナビリティ全体構想
3. 事例紹介

私たち環境ソリューション本部は、国連が定めた持続可能な開発目標であるSDGsの趣旨に賛同し、全部員が主体的に取り組むことを宣言します。

1. 畜産農家（養豚・酪農）が持続可能な農場環境への取り組み

私たちは、環境にやさしい経営の実践を通じ、畜産農家様や地域の皆様お一人おひとりが、将来にわたって幸せや満足を実現できる農場環境づくりに取り組みます。

2. 普及・拡大への取り組み

私たちは、畜産農家様・関係機関の皆様との会話を深め、畜産業界全体が持続可能な社会となるように活動の輪を広げます。

2. サステナビリティ全体構想（グランドデザイン）

重要課題	取り組み例	対応する主なSDG s
<p>環境にやさしい 尿処理施設 づくり</p>	<p>糞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水処理基準値を遵守したふん尿処理施設の設計施工。(14) (15) ・バイオガス発電の排熱有効利用とFITの有効活用。(7) ・堆肥と液肥の有効活用。(12) (15) ・新技術の積極的な導入。(14) 	   
<p>酪農農家様に 必要とされる 組織づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンス業務の効率化の確立。(12) ・お客様とのコミュニケーションを積極的に行う。(17) ・お客様へ日常メンテナンスの教育指導を行う。(12) (17) 	 
<p>地域に貢献できる 基盤づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県・市町村への啓蒙活動の充実を図る。(17) ・畜産業界が抱えている問題解決に積極的に係る。(17) ・新技術の積極的な導入。(9) 	 

3. 目標に対してのターゲットの設定

SDG s が定めるターゲット	当社が定めるターゲット
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。	同左
7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。	同左
12. つくる責任 つかう責任	
12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	同左
14. 海の豊かさを守ろう。	
14.1 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。	同左 追記 放流基準を遵守した施設設計施工並びに維持管理を行い、海洋汚染防止に努める。
15. 陸の豊かさも守ろう	
	土壌汚染・地下水汚染を引き起こさない 液肥・堆肥の成分管理を行う。

SDG s が定めるターゲット	当社が定めるターゲット
17. パートナーシップで目標を達成しよう	
(技術)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 官庁（農研機構）との共同開発・普及及び拡散を推し進める ・ 民間企業（コンサルティング）との共同開発・普及及び拡散を推し進める。
(体制面) 17.14 持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 維持管理上必要となる処理システムの開発を政策に取り入れて頂く働きかけをする。
(マルチステークホルダー・パートナーシップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続可能な施設の維持管理のために、顧客とのパートナーシップを強化する。 ・ 新たな技術開発のために官庁への働きかけを強化する。 ・ コンサルティング会社とのパートナーシップを強化する。
(データ、モニタリング、説明責任)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自毒可能な施設を維持するためにデータ収集と対処方法の集積を強化する。 ・ 新規開発に役立つデータ収集の強化。